

## 一人ひとりの成長を信じ、ともに育てるために

校長 相川 保 敏



お子様の学年の修了、誠におめでとうございます。春の訪れとともに、子どもたちは進級という新たな節目を迎えます。新しい学

年、新しい仲間、そして新しい学びに胸を膨らませていることと思います。

本校での学びは、学力や技能の習得にとどまらず、人と関わる力、他者を理解しようとする姿勢、そして自分自身を大切にすることを育んでいくことです。そして、一人ひとりの個性と可能性を尊重し、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育てることを目標としています。

小学校六年間は、子どもたちが心身ともに大きく成長する大切な時期です。その歩みに寄り添う教師は、子ども一人ひとりの“学びの伴走者”として、成長段階に応じた適切な距離を保ちながら関わる必要があります。

低学年では、生活の基礎や学びの楽しさ、友達との関わり方の第一歩をともにつくりながら、安心して学校生活に向かえるよう寄り添います。

中学年になると、子どもたちは自分で考え、選択しようとする姿を見せるようになります。教師は必要以上に先回りせず、「どうしたかったの?」「次はどうしてみる?」と問いかけながら子どもの考えを引き出し、挑戦や葛藤を成長の機会として支えていきます。友達との行き違いや衝突も増える時期ですが、それらは“社会の中で生きる力”を育む貴重な学びです。教師はそばで見守りながら、必要に応じて対話の橋渡しを行います。

高学年になると、自分の意思で行動し、自分らしい友人関係を築こうとする姿がよりはっきり見られるようになります。教師は単に指示や助言を与えるのではなく、「あなたはどの関わりたいの?」「その選択は誰を大切にしているの?」といったより深い対話を重ねながら、子どもたちが自らの価値観に気づき、他者と折り合いをつけながら成長していくための“心の支え”として伴走していきます。このように段階に応じて関わり方の距離を調整することが、子どもたちが

「自分の力で学び、自分の力で関係を築く」ための土台となります。

こうした距離の取り方は、学校だけでなく、ご家庭においても大切です。子どもの発達段階に応じて、保護者の関与のあり方を少しずつ調整していくことが求められます。小学校六年間で、介助してくれる人から支援してくれる人へ、そして相談できる人へと変容していくことがよいと考えます。何事も先回りして保護者が問題を解決してしまうのではなく、自分の力を試し、失敗から学び、自信を育てていくような距離感、そして困ったときにはすぐ相談できる安心の距離感を保つことが大切です。このような適切な距離感が、子どもの安心感と自立の両方を支えていきます。

家庭は子どもにとって安心できる心の拠り所であり、学校は集団の中で互いに学び合いながら磨かれ成長していく場です。両者がそれぞれの役割を尊重し、同じ方向を向いて子どもたちの歩みを支えていくことが、進級・進学という節目を確かな成長へとつなげていくものと確信しております。

新しい一年が、子どもたち一人ひとりにとって、自分の力で学び、自分の力で関係を築きながら成長していく充実した一年となるよう、教職員一同、子どもたちの“伴走者”として心を尽くして教育にあたってまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 令和8年 相小四字熟語

本年度の四字熟語は「失美強心（しびきょうしん）」です。全校朝会で最も支持を集めたものです。3年兼脇すみれさんが考えてくれました。意味は「失敗しても美しく強い心で、失敗しても大丈夫」です。校訓の「強く、明るく」と失敗を恐れずにチャレンジしていく気持ちが表れていると思います。書は5年松本ここさんの作品が選ばれました（左掛け軸）。校長室前に1年間掲示していきます。

